

主催：日本経済新聞社、秋田県  
後援：広島県福山市、静岡県下田市、  
ワーケーション自治体協議会

# 地域が育む新しい働き方

ワーケーション会議 in 秋田 ~秋田で暮らし、リモートで働く~



右から堀口氏、東原氏、松浦氏、麓氏

●パネリスト

秋田ワーケーション推進協会 会長

日本航空 人財本部人財戦略部

URNSプロデューサー/第一プログレス 代表取締役社長

●コーディネーター

作家・ジャーナリスト/元日経ウーマン編集長

松浦 隆一氏

東原 祥匡氏

堀口 正裕氏

麓 幸子氏

冒頭メッセージ

秋田県知事

佐竹 敬久氏



## 伴走型の支援制度創設

昨年度から、首都圏などでの仕事をリモートワークで継続しながら、秋田に生活の拠点を移す「リモートワークで秋田暮らし」を推進し、ワーケーションの誘致にも取り組んでいる。県内には約30カ所の充実したリモートワーク対応施設があるほか、オフィスの賃料や土地代の安さも魅力の一つ。また、持ち家住宅率が全国1位で、自然災害や犯罪も少ない。待機児童も少なく、小中学校の学力が全国トップレベルであることから、子育て世帯にとっても魅力的な環境だ。サポート体制も充実しており、今年度、企業や社員のニーズを踏まえ、伴走型の支援制度を創設した。まずは一度訪れて、秋田暮らしの魅力を感じてほしい。

基調講演

LIFULL社長

井上 高志氏



## 企業誘致へ不安払拭を

コロナ禍でオンライン化が進み、時間と場所を自由に選択できる働き方、ABW(アクティビティ・ベイスド・ワーキング)が可視化された。弊社もABWを導入し、全国の関連施設での就業も在宅勤務として承認している。平均で4泊5日、1カ月利用した社員もいた。経営

側からもポジティブな意見が多く、プロダクトサービスの責任者は「副次効果で会社に対する信頼、ロイヤリティも増した」と話している。テレワーク企業の進出は地域の課題解決と相性が良い。利用者の約8割が20、30代。観光目的以外で長期滞在するため、IT人材が滞在する地域企業と協業するなど補完効果がある。企業

側にもインベション創出や災害時などのリスクヘッジ、ニアシア型の人材確保など利点がある。移住者が心配するのは教育と医療、移動手段。教育ならデュアルスクールやオンラインの活用、医療なら遠隔医療などサポート体制の充実が必要だ。都会の人は車や免許を持っていない人も多い。ライドシェアの提供や、無人走行車の実装など高齢者の足にもなる取り組みを積極的に進めたい、不安を払拭することが誘致につながる。

パネルディスカッション

## 発信前に地域で徹底議論

麓 秋田の文化や伝統の特色は何でしょう。松浦 意外とヒールできていないもの一つに世界遺産がある。自然遺産の白神山地のほか、今夏には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が文化遺産に登録された。人間と自然の共生が叫ばれる中、循環型社会の原点がある。風力発電など再生エネルギーの盛んな

土地でもあり、体感できる場所として定義する必要はある。また、17もの重要無形民俗文化財があり、しっかり引き継がれている。麓 リモートワークを移住につなげるポイントは。堀口 リトルトーカーをつくる必要は全くない。その地域にしかない魅力を発信するチャンスであり、どんな地域にしたいのか、

どんな人に来てほしいのか、受け入れる側の人たちが徹底的に議論して発信していくことが大事だ。東原 はじめの一步、ハードルをどう下げることがポイント。地域を選ぶ際のインセンティブを運賃の安さを感じる人もいれば、プログラムをきっかけにする人もい。また会いに来たい、というものが生まれるよう

にするのが大切だ。麓 ポイントは人。東原 行った後に思うのは人だと思うが、最初は口コミかもしれない。今、いろいろな所が情報発信をしていて、全部をターゲットにしているように見えてしまう。一体どこが自分のニーズに合致しているのかまでは、東京にいるだけではなかなかつかめない。松浦 受け入れの施設は行政の取り組みもあってかなり整備が進んでいる。ただ人、サポーターの人数は足りていない。これをどう育成するかが課題だ。堀口 コーディネーターの存在も重要。特別すごい人である必要はなく、地域のことが好きで地域の事業者らをよく知っている人この人たちはお互いを必要としているのではないかとさりげなくつないでくれる人が必要だ。愛媛県今治市などでは、ワーケーションに入った人が地域の子供たちに自分たちが都市でやってきた仕事を教える時間をつくって、子供たちの将来の職業選択の幅が広がっている。そういうことをコーディネーターが企画して一緒にやっている。東原 企業側も「目の前にいない」をきき取って「

堀口 コーディネーターの存在も重要。特別すごい人である必要はなく、地域のことが好きで地域の事業者らをよく知っている人この人たちはお互いを必要としているのではないかとさりげなくつないでくれる人が必要だ。愛媛県今治市などでは、ワーケーションに入った人が地域の子供たちに自分たちが都市でやってきた仕事を教える時間をつくって、子供たちの将来の職業選択の幅が広がっている。そういうことをコーディネーターが企画して一緒にやっている。東原 企業側も「目の前にいない」をきき取って「

堀口 企業側が一步、二歩踏み出すことが大事だと思う。ワーケーションから入って課題解決に向けた事業を起すとか、ある程度インテグレートしてやる必要があるのではないかと。堀口 企業の決裁権のある人たちが関わり、何のためにそこに行っているのか、そのメリットを理解してほしい。そして、いきなり2泊3日で結婚(移住)していただくのではなく、関わっていく段階でWIN×WINになることを考える。例えば、発信する際のホームページを地元デザイナーがつくり、ワーケーションで来た外部のデザイナーが教えるとか。継続的なつながりをつくるといいと思う。麓 ワーケーションは地域では魅力の再定義に、企業では個人の幸せに着目した働き方改革につながるもの。パラダイムシフトの起爆剤になると思う。

本シンポジウムの内容は日経チャンネルのWEB配信でご覧いただけます。

日経チャンネル | NIKKEI CHANNEL

ワーケーション会議 in 福山

[https://channel.nikkei.co.jp/workation\\_fukuyama/](https://channel.nikkei.co.jp/workation_fukuyama/)



ワーケーション会議 in 下田

[https://channel.nikkei.co.jp/workation\\_shimoda/](https://channel.nikkei.co.jp/workation_shimoda/)



ワーケーション会議 in 秋田

[https://channel.nikkei.co.jp/workation\\_akita/](https://channel.nikkei.co.jp/workation_akita/)

